

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171100144		
法人名	社会福祉法人 久栄会		
事業所名	グループホーム <small>イナリ</small> 石動		
所在地	神崎市吉野ヶ里町石動3210番地		
自己評価作成日	平成21年10月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成21年11月18日	外部評価確定日	平成21年12月16日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者を尊重し、生きがいと残存機能の維持の為、買物、料理、畑仕事、漬物つけ、筍掘り、掃除、洗濯、などできる事は楽しくしてもらい、職員と共に毎日の生活を送っています。地域に根ざした楽しい生活を送ってもらう為、部落に会費を収め、部落の一員として部落の総会、敬老会、清掃活動等に参加し、部落の人々とのしっかりした友好関係が築かれております。又、ホームでの消防訓練や、バーベキューの催しにも10名以上の部落の方が参加され、お互いのコミュニケーションができ、絆も深まり、暖かい気持ちで部落の人から接してもらい、気安く会話を交わし、利用者の無断外出時など、すぐさま連絡をして頂くなどしてもらっております。利用者の方は法人内のデイサービスでは週2回の音楽リハビリ、園児との触れ合い、ボランティアの方の踊りなど、小規模多機能でのカラオケや、グループホームでは部落の子供との七夕祭りなど、それに週1回の各事業所との合同レクリエーションに参加され楽しく過ごされています。以上のようなことを職員一同心がけ支援しておりますが、その甲斐あってか利用者のそれぞれの体の不調も回復に向かわれ、生き生きと活気ある生活をされておられます。職員一同それが励みでありケアに対する共通の認識のもと共感の度合いも高まり利用者本位の手助けに努めております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

長崎自動車道の東脊振インターに程近い、田園地帯の集落にある、古民家改修型の事業所である。代表者(管理者)及び職員は、地域密着型サービスの役割をしっかりと認識し、一丸となってサービスに取り組んでいる。事業所は、地域の一員として根付いており、周囲の人達とは、物心両面に亘る双方向的な交流をもっている。災害時の避難訓練や利用者の外出時の連絡等へも積極的な協力が得られている。日常のケアにおいては、特別な決まりごとを作らず、自然体で、利用者や家族の希望や意向を尊重した支援に取り組んでいる。利用者の身心の機能維持と向上を目指し、「1日1回は外出を」をモットーに、日常的な外出や馴染みの場所・人とのつながりを大切にした支援にも力を入れている。外部評価の結果については、運営推進会議でも詳細に亘って報告しており、参加者からは課題についての意見等も得られ、サービス向上に活用している。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスを踏まえた理念を作り話し合いに基づきその理念を共有し実践している。	利用者が地域の中で最後まで、安心してその人らしく暮らせるための支援を目指した理念を作り上げている。職員の採用時には、初期の研修できちんと理念を伝え、日々の朝礼でも唱和をし、実践に臨んでいる。また、管理者(代表者)は、会議の場等でも折に触れ理念について話をし、共有化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会に加入し、地域の総会、敬老会、老人会等の行事に参加し、また事業所のふれあい祭りや七夕祭りなどに参加してもらっている。	自治会にも加入し、地域の一員として総会や敬老会、老人会に利用者と共に参加をしたり、公民館の掃除等も行っている。近隣の方々とは日常的に挨拶を交わしたり、事業所の行事にも参加をしてもらっている。また、散歩の時の休憩場所には、地域の方が花を植えてくださる等、物心両面での交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は地域の敬老会、総会等において認知症の実態、サービスのあり方等について話し合いを行い、また清掃活動や散歩買物等での地域の人との触れ合いで認知症の人の理解や支援方法を地域の人に示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進委員会を開催し、運営実態や課題等について活発な意見を交わし、運営に反映させている。	運営推進会議には、家族を始め、地域の代表、地域包括支援センターの職員等多数のメンバーが毎回参加されている。会議では、運営の状況や事業所の課題等について話し合い、積極的な意見交換が行われ、運営に反映している。外部評価の結果についてもきちんと文書化し、詳細に亘って報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町や地域包括支援センターとはよく交流をし、入居者の紹介、介護関係者等の情報を得たりし、相互理解を深めている。大学や中高生のボランティアを受け入れ職員や入居者との交流を図っている。	町や地域包括支援センターの担当者とは気軽に情報交換や課題等の相談ができる協働関係を築いている。また、行政との関わりにおいては、ギブアンドテイクの精神で事業所としてできることの還元にも努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員による見守りを徹底し帰宅願望については制止するのではなく、さりげなく声掛けをし、外出については同行している。外出は地域の人との協力体制もあり通報などしてもらっている。	職員は身体拘束の弊害を理解しており、安全に配慮しつつ自由な暮らしの支援に取り組んでいる。昼間は玄関は施錠せず、自由に入出りができる。利用者の外出気配は、職員の連携で見守り、希望時には、さりげなく同行している。また、地域の人からは声かけや連絡の協力等も得られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待防止法について学ぶ機会を持ち、利用者の虐待が見過ごされることがないように注意を払い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は成年後見人制度等について研修会で学び個々の必要性を関係者と話し合いそれを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解除又は改定等の際は重要事項について十分な説明をし、利用者や家族の疑問点についても十分な説明をし理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の時にアンケートを実施したり、家族の来訪時や各種行事等で常に問いかけ、何でも気軽に言ってもらえるよう話している。また、玄関に自由に意見を言ってもらえるよう意見箱を設置しており、出された意見、要望等はミーティングで話し合い、反映させている。	面会時や家族会等の折に、繰り返し声をかけ、何でも言ってもらえるように、雰囲気作りにも工夫している。なお、家族会の折には、アンケートも実施している。出された要望等については、話し合って速やかに対処し、運営に反映している。なお、重要事項説明書には、事業所以外の苦情申し立て窓口等も明示し、説明をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や、管理者は職員が意見や要望を言える明るい職場づくりに努め、通常勤務や、月1回のカンファレンスにて行事等、反省会を行い職員の意見を聞き反映している。	管理者(代表者)は、普段から職員との意思の疎通を心がけており、自ら声をかけ、忌憚のない意見等を求めている。職員は、毎月のカンファレンスの折にも、気づきや提案等を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の勤務態度、実績等を把握し、人事考課により賞与や給与に反映させ、又労働時間、職員との面談などにより、働きやすい職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のための外部研修をはじめ、法人内外の研修会に参加したり又新人に対しては新人研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の職場と合同勉強会を持ち又訪問をしサービス向上に取り組んでいる。又研修会でも交流に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、ケアマネージャーで本人、家族から不安、要望を聞き必要とされる支援を把握して、安心していただける関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に管理者やケアマネージャーが家族と話し合い日常生活や介護の実態について理解、納得してもらい入所をしてもらっている。また、入所当初は家族の訪問をしてもらい、介護の実態や利用者の状況等を把握、理解してもらうよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、ケアマネージャーが本人、家族とよく話し合いどんな支援が必要かよく見極め、法人内外のサービスの利用を含めサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人に日頃から料理や畑仕事を教えてもらう場面も多くお互いが支えあえる関係を大切にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡をよく取り、面会にもよく来てもらいコミュニケーションを図り、面会、受診、外泊、家族会などの機会において、共に本人を支えていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の家、親しい友人、生まれ故郷、墓参り、かかりつけの理容室、病院、行きつけの店等希望があれば一緒に行き、人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	本人の実家や生家に出かけ、懐かしい人に会ったり、行きつけの美容院や店と一緒にいく等、本人の大切な馴染みの場所や人との関係の継続支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し食卓の座席の位置、車内の席など考慮している。また、畑仕事、料理の準備、歩行等、日常生活の場において利用者同士が支えあう姿勢が見られ、側面的に支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人が退所されてからも、家族と連絡を取ったり本人に面会に行くなどして相談や要望等に応じ、必要なフォローをなすなどして関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の会話や行動の中で様々な希望や意見を見出し、把握すると共に家族からも情報を収集するように努めている。困難な場合は職員間で検討しながらできるだけ本人本位に支援するように努めている。	日常の関わりの中で個別にゆっくりと向き合い、会話や表情等から把握するように努めている。把握した希望や意向を尊重し、可能な限り実現に取り組んでいる。希望や意向の把握が困難な場合には、家族から情報を得、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族、友人、親族などから、これまでの生活歴や環境等、様々な情報を収集すると共に日常の会話の中でも把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者各人の動向、心身の状況の把握に努め、感情、気持ちに寄り添い、心の中を開き、毎日の申し送りや個別ケース記録、職員間の連絡ノート等を活用し、またカンファレンス会議においても現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や意欲向上、意思の尊重を念頭に置き、家族の意見や希望も反映し、また毎月のカンファレンスで職員間で意見を出し合いながら介護計画を作成している。	本人や家族の希望や意向を確認すると共に、医師やスタッフ間の情報交換を密にして、本人本位の介護計画を作成している。なお、計画に添った評価を毎日行い、期間に応じた見直しや、状態に応じた臨機応変の見直しを行っている。見直しの会議には、家族にも参加してもらい、要望に添うように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や気づき等は個別のケース記録と介護計画に基づいたケアチェック表で実践や結果を記入し、また排泄チェック表を利用するなどして毎日の実践に活かしている。毎月行う定例会議でも意見交換をしながら情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	画一的なサービスではなくその時々様々な状況に対応できる支援を行うよう取り組みしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の住民、商店、理容室、病院、歯科、金融機関等、地域資源を的確に把握し、利用者がそれらの資源を活用し、安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人馴染みのかかりつけ医、又は本人家族が希望する協力医療機関でもらっている。月に二回の訪問診療や臨時の往診などかかりつけ医との関係を密にしている。	事業所の協力医の他、本人の希望する馴染みのかかりつけ医での医療が受けられるように支援している。通院は基本的には家族の付き添いとしているが、状況によっては、職員が通院介助を行い、適切な診療が受けられるように支援している。また、入院時にも、状況によっては、夜間に付き添うこともある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の勤務を通じ、利用者の容態の変化、心身の状態等の把握に努め、看護職員や管理者等に、その情報を伝えて相談し、情報を共有し、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院の際には、病院関係者との情報交換や相談を密にし、安心して治療できるように、又早期に退院できるように努めている。又、その後に備えて病院関係者との有効な関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に重度化した場合の介護、看取り介護について明記しており、家族、医師、職員を交えて、看護、介護のあり方について話し合いを行い、方針を共有し、地域関係者と共に支援に取り組んでいる。	重要事項説明書に重度化した場合や看取りの介護について明示しており、利用開始時に説明を行い、家族等の気持ちを確認している。重度化や看取りのケアを要する場合には、事業所が対応すること等を家族に説明し、家族の意思を確認し、家族や医師、職員等で繰り返し話し合っ方針を共有し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて職員は消防職員によるAEDの使用方法、救護措置等の教養を受け、又、応急手当や初期対応の研修を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年二回、全職員が行い、又、地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず非難できる方法を身につける研修を行っている。地域との協力体制ができており、地域の人々と共に消防訓練を行っている。	年に2回、消防署の協力を得て、昼夜を想定した火災時の避難訓練等を実施している。訓練には、地域の人達の参加もあり、利用者の避難誘導等に協力が得られている。居室脇の廊下には新たに避難用の階段も設置されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	様々な支援を行うときは常に本人の意思を尊重し、了承を得てから支援を行うようにしている。排泄介助等も羞恥心に配慮した声掛けをしている。ホーム便りや掲示板写真、研修資料等も本人家族の同意を得て使用するなど、プライバシーを損なわない対応をしている。	職員は利用者一人ひとりを尊重した言葉かけをしており、援助が必要な場合にも本人の気持ちに配慮して、さり気なく対応している。個人情報の取扱いには注意をしており、ホーム便り等への利用者の写真掲載や研修会の資料等では本人や家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中では常に意思を尊重し、自己決定できる機会を多く持つようにしている。本人が要求する事は出来るだけ応えるようにしている。金銭の要求など家族の承諾を得るべきことは承諾を得て行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、入居者一人ひとりの意思を尊重しており入居者は自分らしい、自分にあった時間の過ごし方で1日を過している。職員は入居者に合わせて活動しており希望や意思を尊重し臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一回は美容室から散髪に来てもらい園内にて散髪を行っている。また行きつけの美容室を希望される入居者はその希望を尊重し支援している。また男性は髭をそる、女性は爪にマニキュアを塗るなど一人一人の希望や意思を尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食利用者と共に準備、片付けをしている。野菜を切る、味付けをする等の調理や配膳など様々な所に関わってもらい達成感、自分の役割、生きがいを感じてもらおうようにしている。また入居者の意思を尊重し外食の機会を持つたり、利用者の好むものを献立に入れる。	職員は利用者個々の力を活かし、食事の下ごしらえや、味付け、及び盛り付けや配膳、後片付け等に積極的に取り組んでもらえるように支援している。食事の時には、職員も同じテーブルを囲み、同じ食事を食べ、献立に関する話等をし、楽しい雰囲気づくりを心がけている。また、献立に利用者の希望を採り入れたり、外食を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の摂取量は毎回記録し職員全員が把握できている。また栄養バランスを考え献立を立てる。園内の畑から取れる新鮮な野菜や季節のものを積極的に取り入れている。また入居者の食事の時間が楽しくより充実した時間になるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、義歯の洗浄を各利用者の方に応じて支援している。又殺菌効果のあるお茶でのうがいを実践している。夜間は義歯を外し洗浄剤にて消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	外出前は必ず排泄誘導を行う。失禁の多い利用者は毎日排泄チェック表をつけ排泄パターンを把握し、定時の排泄誘導を行う事で失禁の回数を減らすようにしている。	自尊心に配慮しながら、排泄パターンに応じて前誘導を行い、トイレでの排泄に取り組んでいる。利用者のほとんどが常時リハビリパンツを使用されている。	一人ひとりの排泄のパターンや習慣及び失禁の要因等を再確認し、リハビリパンツの使用を減らす更なる取り組みを期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1回を玄米食にし、また十分な水分補給を心がけている。特に夏の期間はウォータージャックを居間に設置し利用者が自由に飲めるようにしている。また音楽リハビリ、近所への散歩、買物、ドライブ等により体を動かす事を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	各利用者の力に応じた援助をしている。2日に1回のペースで入浴するように支援しているが利用者の要望で毎日入浴することもある。入浴拒否が強い方は家族様に協力してもらっている。入れない場合は清拭、更衣を行い清潔を保っている。	基本的には、2日に1回の入浴としているが、希望があれば毎日の入浴にも応じている。なお、夜間の入浴を望まれる時にも、意向に添って支援している。入浴の拒否が強い場合には、家族の協力を得ることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の習慣を崩さぬよう利用者のペースで休息してもらい、また状態を察して居室への誘導、入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、利用者ごとの薬の目的、副作用等について理解しており、処方どおり確実に服用してもらうよう支援している。又、症状の変化の確認に努め、担当医に連絡し、薬の調整をもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴・趣味・特技を把握しその能力を活かせるよう家事・畑仕事等の活動場面を作り、また買物・ドライブ・歌・音楽鑑賞など取り入れ利用者と職員皆で楽しいひと時を過ごしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の要望に沿って、散歩や買物、カラオケ、ドライブ、園児との交流、観劇やカラオケ大会見学、弁当を持っての外出など、よく外へ出かけている。又、ホームの外出行事や、音楽リハビリ、合同レク、地域の清掃活動等、外出の機会を多く持ち支援している。	「1日1回は外出をする」ということをモットーに、利用者の状態に配慮しながら積極的に外出支援を行っている。外出は近隣の散歩や地域の行事、利用者の希望される場所へのドライブ、買物、観劇、同一法人の施設での音楽療法やカラオケ等多様であり、利用者の楽しみになっている。	



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的にお金を所持することで安心される方はお小遣い程度お渡しし、働きに来ていると思われている方には要求されるときや給料日を決めお渡しする。日常的に買物を行う時や買い物日を決め実施している。能力に応じて職員が支援する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方からの電話には直接ゆっくり話しをして頂くよう配慮し、本人の希望時には内容に応じ、対応する。又本人が管理できる方に家族の方より携帯電話を所持されている。手紙や年賀状は、利用者の能力に応じ、側面的に作成や代筆を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は穏やかに話しかけるように努め、テレビの音量は調節し、西陽の当たる窓にはレースのカーテンを取り付け、庭にはゆっくりくつろげる大石を置き、安らかに過せるよう支援している。又、玄関や居間には季節の花を掛け、廊下や居間には入居者手作りの壁飾りをしている。	玄関や居間は南向きで日当たりが良く、設えや家具等も利用者が安心して使用できる物が設置されている。なお、トイレには、使い勝手に配慮した工夫が見られる。また、玄関や洗面所、食卓等には季節の花がさり気なく飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々自由に自分の居室でゆっくりと過していただいたり、居間のソファでゆっくりとテレビを見ながら会話を楽しんで頂く又スタッフが利用者同士の中に一緒に入る事でゆっくり過しやすい雰囲気を作るように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には自分の居室と直ぐ理解されるよう写真入の表札を配置している。居室への持ち込みは、以前より使い慣れた道具類など使用する。家族や面会に来られた方々と一緒に写真を撮り壁に掲示している。	職員は家族に馴染みの物の持込を勧め、居心地の良い居室作りを支援しており、家族の写真や数珠、使い慣れた筆筒、鏡台、人形、飾り物等が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や玄関等、各要所に手摺りを設置し自分で移動が出来るようにしている。又その都度職員が見守りを行う。トイレ、風呂、各自の居室が分かるよう表示している。各利用者の得意な事や残存機能を活かしその方に適した仕事、洗濯たたみ、料理の手伝い、片付け、畑仕事など職員と一緒に安全で出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない